

平成 21 年 10 月 8 日

各位

株式会社ディーエイチシー
東京都港区南麻布 2 丁目 7 番 1 号
代表取締役会長 吉田嘉明
お問い合わせ先 医薬食品相談部
電話 03-3457-5311(大代表)

愛犬用健康食品“ダイエットドッグ”の体重・体脂肪減少についての報告

株式会社ディーエイチシーは、当社製品である愛犬用健康食品“ダイエットドッグ”使用による犬の体重・体脂肪減少についての試験を実施しました。その結果、本製品が犬の体重・体脂肪減少に対して有用性があることを確認しました。

【研究の背景と目的】

日本臨床獣医学フォーラムでの研究発表で犬の体脂肪率 35%以上を肥満とすると現在飼われている犬の約 4 頭中 1 頭は肥満であるとのデータが発表された。今や肥満犬は増加傾向にあるが、ヒト同様愛犬を肥満にさせることはさまざまな病気を併発する可能性があることを把握しておかねばならない。

●肥満に伴う病気

- ・ 関節炎、椎間板ヘルニア: 重たい体を支えるために足腰に負担がかかる
- ・ 心臓疾患: 大きな体に血液を循環させるために心臓に負担がかかる
- ・ 呼吸疾患: 呼吸器官や循環器官への負担
- ・ 脂肪肝
- ・ 免疫力低下
- ・ 糖尿病 など

肥満になることは愛犬の体にとって大きな負担が強られるが、実際のところ多くの飼い主は愛犬が肥満であることに気付いていないことが多い。または、愛犬が肥満であることに気付いていても将来的にそれがどれだけのリスクを負うかまで把握していない場合も少なくはない。ほとんどの飼い主にとって愛犬は大切な家族であり、かけがえのない存在である。だからこそ普段から愛犬の体をチェックし肥満にならないようにすることも飼い主の重要な役目であると考え。肥満予防で一番重要なのは日常の食事管理だが、ついおねだりされると過剰なお菓子やヒトの食べ物を与えてしまう飼い主も少なくはない。だが、この行為こそが愛犬の肥満への原因の一つになっていることを多くの飼い主に把握していただきたい。しかし急に飼い主におやつをあげるなどといっても難しいことであり、犬にとっても今までもらえていたものが急に貰えなくなることは大きなストレスとなる。だからこそ、普段の食生活は変えず体脂肪を燃やしやすい体をつくることが重要であると考え。そこで今回脂肪燃焼を目的とした愛犬用健康食品“ダイエットドッグ”を肥満傾向の犬に与えることで、体重及び体脂肪の変化を確認する試験を実施した。

【愛犬肥満度チェック方法】

両手の親指を犬の背中の中に入れて背骨と肋骨をさわったときの感触でチェック

- ・ 背骨と肋骨を触ることが出来る: 標準
- ・ やや厚い脂肪がついていて、背骨と肋骨を触ることが出来ない: 太り気味
- ・ 脂肪がクッションのようについていて、完全に背骨と肋骨が触れない: 肥満

【試験方法】

肥満傾向の認められる犬 15 頭を対象に、愛犬用健康食品“ダイエットドッグ”を 60 日間連続経口投与してもらい、投与前後の体重と体脂肪を一般開業動物病院の獣医師に測定してもらった。

試験対象犬にはすべて飼い主の協力により食事を一般フードにってもらい、フードの影響を排除した。

また、今回試験を実施した犬の 15 症例中 9 頭は健康犬、6 頭は疾患を抱えたステロイド投与犬とし、ステロイド投与時における体重増加を抑制できるかどうか評価に加えた。尚、本試験は株式会社パラディウムにご協力いただいた。

【試験結果】

●体重・体脂肪測定結果

犬種	性別	年齢	体重(kg)			体脂肪(%)			備考
			投与前	投与後	増減	投与前	投与後	増減	
柴犬	♀	5	8.6	8.5	-0.1	41	33	-8	
キャバリア	♀	2	9.6	10.7	1.1	43	42	1	試験期間中フードをダイエット用から一般に変更
柴犬	♀	11	11.6	12	0.4	42	46	4	
フレンチブルドッグ	♀	-	8.86	9.4	0.54	43	40	-3	
チワワ	♂	5	3.8	3.7	-0.1	34	24	-10	
ミニチュア・ダックスフンド	♂	10	7	6.8	-0.2	44	39	-5	
ミニチュア・ダックスフンド	♂	6	5.2	5	-0.2	36	31	-5	
ウェルシュ・コーギー	♂	9	12.8	12.7	-0.1	26	26	0	
ケアン・テリア	♂	7	8.5	8.2	-0.3	42	40	-2	
ビーグル	♀	9	9	9.4	0.4	48	41	-7	ステロイド投与
マルチーズ	♀	6	7.1	7.64	0.54	38	42	4	ステロイド投与
ミニチュア・ダックスフンド	♀	12	9.2	8.92	-0.28	35	31	-4	ステロイド投与
柴犬	♀	12	17.3	17.34	0.04	47	42	-5	ステロイド投与
ミニチュア・ダックスフンド	♂	4	8	7.5	-0.5	40	34	-6	ステロイド投与
ビーグル	♂	9	11.3	11.3	0	36	27	-9	ステロイド投与

●総合評価及び症状別評価

分類	項目	減少	不変	増加	減少率
総合評価(15例)	体重(kg)	8	1	6	53.30%
	体脂肪(%)	12	1	2	80.00%
健康犬の判定(9例)	体重(kg)	6	0	3	66.70%
	体脂肪(%)	7	1	1	77.80%
ステロイド投与犬の判定(6例)	体重(kg)	2	2	2	33.30%
	体脂肪(%)	5	0	1	83.30%

●投与後の活動性について

活動性(15例)	非常に活発	やや活発	不変	活発でなくなった	元気がなくなった	QOL低下率
	0	1	13	1	0	6.70%

●投与前・投与後写真(例:ビーグル ♀ 9歳、体脂肪48%⇒41% -7%)

投与前



投与後



【考察】

本試験の総合評価より体重の減少率は50%を超え、体脂肪減少率は80%と高率の結果を示した。健康犬では特に体重の減少率が高く66%を示した。一方、ステロイド投与犬への使用については、体重減少率は落ちるが、体脂肪減少率は83%と非常に高い結果を示した。病気治療によるステロイド投与は過食・肥満というリスクが付きものであったが上記結果から、“ダイエットドッグ”の投与は肥満へのリスクが軽減されたことが示唆された。また、愛犬用健康食品“ダイエットドッグ”の使用は、カロリーの高いフードに変えることなく、体重・体脂肪減少に有用であることから、飼い主および愛犬にとって精神的負担を軽減できるアイテムの一つであることが示唆された。